

## 地域との連携を強化します

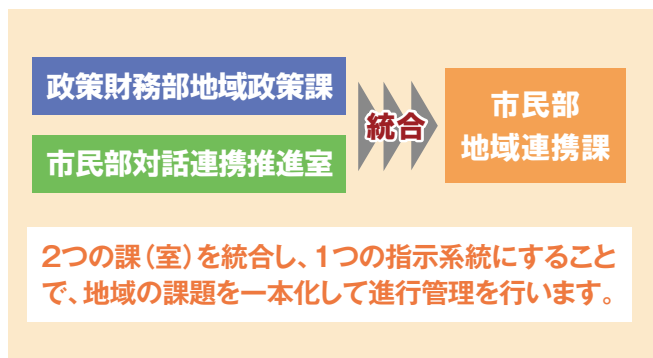
市民の皆さまからの期待に誠意をもって応え、信頼を得られるよう、全職員が地域からの声に「即答・即応し実現する市役所づくり」に邁進します。

市民の声を聞き、その望みや願いをかなえるのが私たちの務めです。

私は市民の皆さまの期待や思いを受け止めるため、市民の皆さまとの対話を大切にしてきました。対話により、埋もれている課題が掘り出され、同時に解決策を得られることも数多くありました。平成25年度に創設した地域インフラ維持・補修事業は、まさに地域住民の思いを受け止め、実現したものです。平成26年度のこれまでの事業実績数は、前年度の同時期と比較して大きく上回っており、身近な地域の要望に即応するために、今後も事業をさらに進めます。

このように、課題となる「問い」と解決策である「答え」は現場にあります。問いと答えが見つかれば、次は市役所が「連携」によって、迅速かつ着実にそれを形にし、結果を出すことができます。平成27年度は、市民の身近な望みをさらに早く確実にかなえられるよう、地域との連携をより強化します。

- 平成27年4月の組織改正で地域連携課を設置



- 美杉総合支所による過疎地域自立促進計画の策定、進行管理

## 平成27年度予算

一般会計予算は、合併後10年を目途に継続的に進めてきた事業や既に着手した事業など、これまで取り組んできた事業、また既に計画を公表している事業を着実に推進することで、まちづくりのスピードを停滞させることのないよう、「暮らし支援継続予算」として編成したものであり、平成26年度と比べ4.2%増の1,159億1千万円としました。

またその一方で、政策的判断が必要なものや、新たに計画を策定し実施していく事業は、市長選挙を控えていることから、当初予算での計上を差し控えました。

## 編成のポイント

歳出では、新最終処分場・リサイクルセンターの建設費、JR名松線の復旧工事費や産業・スポーツセンターの施設整備費のほか、防災物流施設の整備費、計画的に進めている学校施設整備費などに予算配分した結果、普通建設事業費が、前年度比7.2%増の212億6千万円となり、また、基幹情報システムの更新などにより、物件費が、前年度比10.5%増の201億円となりました。

歳入では、市税は景気動向・税制改正の影響などにより、前年度比0.6%減の394億1千万円、地方交付税は、地方財政計画を踏まえ、前年度比0.6%増の182億円を見込んでいます。市債は前年度比12.9%増の165億円を見込んでいます。

普通建設事業費への財源には、合併特例事業債や過疎対策事業債をはじめとする有利な地方債を選択するとともに、計画的な財政運営を念頭に積み増しをしてきました財政調整基金からの繰り入れにより予算編成をしています。

## 合併10年目の市政運営に取り組む姿勢

市長に就任した4年前、私は、「合併して良かったと市民の皆さまに思っただけのような津市にしたい」そう心に決めました。振り返りますと、そのためにはどうすればよいかを考え続けた4年間でありました。

そして、合併後の10年間でやるべきことには、ほぼ目処をつけることができました。加えて、さらに進めるべきことにも、一定の方向性を定めることができました。

また、「合併によって、身近なことが自分たちでかなえることができなくなった」などの声に対しては、地域へのよりきめ細やかな対応ができるよう取り組みも始めます。

合併10年目の節目を迎える本年度は、進めるべきことを確実に、地域に根ざした対応をしっかりと、市役所職員一人一人が市民の皆さまのために尽くすという原点に立ち返り、一丸となって、心を込めて仕事をしていきます。

来年1月1日に新津市誕生10周年を迎えた時の市民の皆さまの笑顔を思い描きながら、全力を尽くし、市政を推進します。